

美術科授業案

日時 平成29年1月27日(金) 4校時
生徒 1年B組 男子13名 女子21名
授業者 更科結希
授業場 美術室

1 題材名 moment by moment ～変化する影のある空間～〔表現A(2)(3)・鑑賞〕

2 題材の目標

線材を組み合わせることによって生まれる立体を使い、大きさを変えたり、バランスを考慮して組み合わせることができる。また、他者と協力して互いの作品を組み合わせて大きな造形物にする際に、組み替えたり、付け加えたりする中で、空間や量感を意識して構想を練り、作品の回転する動きによって現れる影に着目し、より美しい空間づくりを目指して表現を工夫することができる。

3 題材について

(1) 題材観

本題材では、表現する過程の中で自己や他者がつくる形を鑑賞しながら、視点を他者と共有しながら、自己の感覚を磨いていくことで、よりよい表現を目指していくものとした。

本題材は表現(2)のデザインや工芸などを対象として発想構想する活動に該当し、第1学年においては、飾る、伝える、使うなどの目的や機能と、美しさを考え発想や構想することをねらいとしている。そのためにも、個人としての考えにとどまらず他の生徒も共通に感じる感覚を意識させることが重要である。

本題材では、古くからフィンランドの農家に伝わる伝統的な装飾品であるヒンメリを用いる。ヒンメリは、寒冷地で栽培できるライ麦のストローを使用し、人々が五穀豊穡・無病息災などを願い、一本の糸によって組み上げた正八面体を基本とした幾何学的な形態を組み合わせた立体作品である。また、ヒンメリは別名「光のモビール」とも呼ばれ、室内に装飾することで壁面にヒンメリの陰影が映し出される様は大変美しい。こうした、農耕を主とした生活をしている人々が収穫したものを使って、願いを込めた表現をすることは、日本の稲わら文化にも共通するところがある。題材を通し、人々にとっての表現の意味についても取り上げていきたいと考える。



(2) 目指す児童・生徒像

図画工作・美術科が目指す生徒像は「表したい想いの実現に向け、試行や再考を繰り返し、創造活動の価値を見いだすことができる」姿である。本題材においては、目的や条件の中で、素材の特性に気付きながら他者と協力し、思い描いた表現の実現のために試行錯誤し創造的な表現を行うことであると考える。

美術科において、想いを実現していくためには、や自己の見方を広げ、工夫の仕方について身につけ、表現の幅を広げていく必要があり、その指針となる視点

を持つことは目指す児童・生徒像に近づけていくためには必要であると考え。

(3) 指導観

本題材においては、線材を用いて立体造形することから、基本的な構造と作り方について習得する必要がある。また、いくつかの形態を組み合わせた複合体とし、上部一点で吊し回転軸をつくりモビールとするため、シンメトリーな表現の美しさや線材の比率を変え応用した形を組み合わせることでの量感への意識など、造形的な視点として構成美に関わる基礎的な見方・考え方を養いたい。

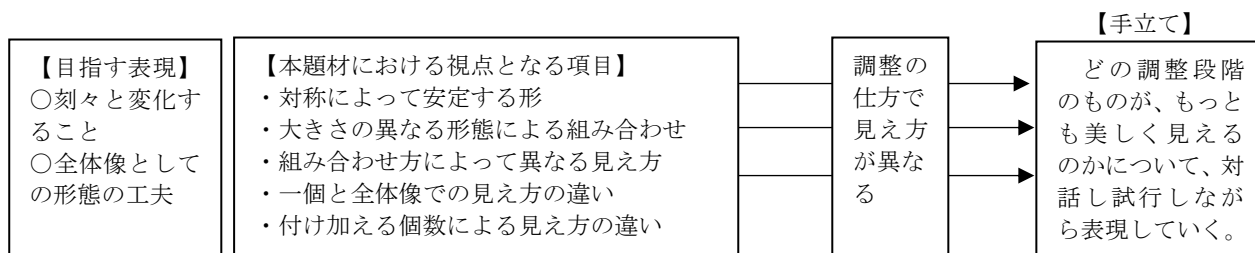
ヒンメリ自体は、軽い素材でできているため、わずかな空気の流れてモビールのように回転する。そのヒンメリをライティングすることによって、壁面に映し出される影が回転する様子や刻々と変化する形態の様子を鑑賞する。その上で、表現の改善をするために必要な形態の組み替えや付け加えをすることに視点を当て、よりよい表現を目指す工夫をさせたいと考える。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

美術科における見方・考え方は、感性や想像力を働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象やイメージを捉えるなどして、自己や他者との関わりや、生活、社会、文化などとの多様な関係の中で、心豊かに生きることと美術との関わりについて自分としての意味や価値をつくりだすこととされている。

本題材においては、造形的な視点としてシンメトリーな表現や線材の大小によって変化する形態を表現する過程の中で、構成美を感じ取る見方・考え方を培いたい。また、組み合わせることによって新たに生み出される立体造形に着目し、組み替えや付け加えをすることによってより壮大で美しい表現が可能になることについても着目させたい。そのためには、最初の基本的な構造を理解し表現する場面では、素材との対話が欠かせないが、発展的な内容の場面では、他者との協働の中で更に形態を変化させていく過程を組み入れることによって、見方・考え方を自覚化できる対話的な学びを充実させたいと考える。

具体的には、構成美に着目するために必要な視点をあげ、そこからどの調整段階のものがもっとも適切であるか、試行しながら決定していく場の設定とした。



4 評価規準

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
ア 目的や条件などを考えて表現することに関心をもち、構成美を考えながら創意工夫して構想を練ろうとしている。 イ 材料や組み合わせの特性を考えながら、見通しをもって表現しようとしている。	ア シンメトリーやサイズの大小、長さの比率などを考えながら、美的感覚を働かせて表現の構想を練る。 イ 用途や材料の質感を生かした表現の構想を練る。	ア 構成美を考え、シンメトリーやバランスを考え創意工夫して表現している。	ア 造形的なよさや美しさ、表現の工夫について思いや考えを説明し合い対象の見方や感じ方を広げ鑑賞している。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学 習 活 動	手 立 て
<p>様々な形によって、構成できるヒンメリを鑑賞し、自分の組み合わせを考える。</p> <p>他者の作品と組み合わせる過程で、光を当てた見方を通して、形を再考する。</p>	<p>1 時間目</p> <p>フィンランドの文化とヒンメリについて学ぶ。また、ヒンメリの基本的な八面体の構造について理解し、形に表す。 【関ア】【鑑ア】</p>	<p>【作品との対話】</p>
	<p>2・3 時間目</p> <p>・大きさや、長さの比率が異なる形態を考え、いくつもの形を組み合わせながら表現する。 ・構成美の要素に着目しながら、バランスの良い形を考え、表現する。 【関イ】【発ア・イ】【発ア・イ】</p>	<p>【素材との対話】 形作るときに考えたい視点を明確にして、選択しながら表現する。</p>
	<p>4 時間目〔本時〕・5 時間目</p> <p>・班員の形を組み替えたり、付け加えたりして、より大きな作品を組み立てる。 ・ライティングして、映し出される影に着目し、形の組み合わせを再構築していく。 【発ア】【技ア】【鑑ア】</p>	<p>【他者との対話】 他者の考えた形と自分の考えた形を組み合わせ、考えながら見る場において、どのようにつなげれば、最も美しいものになるか、多面的に見たこと</p>
	<p>6 時間目</p> <p>・完成した作品を一度にライティングし、互いのグループの作品を鑑賞する。 【鑑ア】</p>	<p>【他者との対話】 他のグループの作品が、どのような調節がなされて構成されているのかについて対話する。</p>

6 本時について（4／6時間目）

（1） 本時の目標

個人で表現した形を持ち寄り、グループでより大きな立体造形として考える上で、素材や形の追加、組み替えなどを行い、シンメトリーや大小のバランスといった構成美を追究し表現することができる。

（2） 本時における研究の視点

本時では、表現された形を組合せ、新たな作品を生み出す過程において、造形的な視点で作品を鑑賞することが主体的な学習になるよう、前半部分で作品をライティングする。

そして、作品に追加する形のサイズや組合せ方などについて、他者と協働することで、共通する意見や異なる意見に出会い、自己の感性を働かせて、造形的な見方や考え方を活用した意見を持ち述べることを手立てとする。

(3) 本時の展開 (○発問、△補助発問、□指示・説明)

学習活動 (下位目標)	主な働きかけ	【評価方法】 個に応じた指導
<p>1 線材の比率の違いや組み合わせ方によって出来上がる形の種類について作品を見て、意見を述べることができる。</p> <p>・線材の長さが違う→形が異なる。 ・同じ形でも組み合わせ方で見え方が違う。 ・同配列でも、サイズが異なる ・組み方の工夫がされていて見え方が面白い</p> <p>・色々な形がみえる ・形が重なるところがいいと思う ・実物はシンプルだけど、影の形が複雑に見える</p> <p>・形を多くすればいいのでは ・大きな作品だったらいいのでは ・複雑な形にしたらいいのでは ・重なる所を多くすると良いのでは</p>	<p>□他の人の作品の形から、工夫されていることと見え方について確認してみよう。</p> <p>□実際にライティングして鑑賞してみよう。</p> <p>○映し出された影とヒンメリは、見え方が違うかな。 A-1</p> <p>○刻々と変化する形を楽しめて、美しい形にするためにどんな工夫が考えられますか。</p>	<p>【発言・ワークシート】 作品との対話</p>
<p>2 グループの作品を組み合わせせて表現しながら、構想を練りワークシートに書くことができる。</p> <p>・この順番で組み合わせた方が良い ・これだけでは、変化が足りない。 ・この形を付け加えた方が複雑になる ・形の中に形を入れ込んでみては？</p>	<p>□それぞれの作品が集まったら、作品はどのように見えるか、実際に組み合わせさせてみよう。 〔作品同士Sカンを使い実際に組み合わせせてみる〕</p> <p>□一度ライティングするので、見てみよう。</p> <p>○組み合わせたことで、影の変化は生まれたけれど、ヒンメリの全体の形はどう見えるかな。</p> <p>○自分のグループの作品に、どんな形を追加してくると良いかスケッチしてみよう。</p>	<p>他者との対話</p> <p>【発言・ワークシート】</p>
<p>3 刻々と変化する形を目指し、調整すべきところを話し合い、よりよい表現だと考えられることを述べることができる。</p> <p>〔調整〕大一小 比率 個数の制限 どのくらいの大きさ、どのような形 〔全体像〕・シルエットでみた全体の形がきれいだなと思う判断で付け加えた。 ・形と形のつながりができるように個数を考えた</p>	<p>○工夫できることを、どの程度形や配置の調整すれば、形が刻々と変化していく様子が美しい作品になるだろうか。 手だてII</p> <p>〔ホワイトボードでのスケッチで案を表現する〕</p> <p>△どんな形でも足せばいいのだろうか？</p>	<p>▲これまで、記録してきた造形的な視点について振り返り替えさせながら、理由を記述できるよう指示していく</p>
<p>4 班で話し合われた内容によって形がどのように変化してきたかについてワークシートに記入することができる。</p>	<p>□形の変化を加えるために検討してきたことが、どのような工夫につながると思うか、考えて意見を書いてみよう。 A-2</p>	<p>【ワークシート】</p>
<p>5 次時への課題となることをワークシートに記入する。</p>	<p>□次の時間に、班で考えるべき箇所について自分の考えをメモしましょう。</p>	